

令和 5 年 5 月 30 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K21112

研究課題名（和文）高齢者の生活をつなぐ看護師主導の新たなネットワークシステムの構築

研究課題名（英文）Building a new nurse-led network system to link the daily life of older people

研究代表者

梶屋 絵理子 (Eriko, Koujiya)

大阪大学・大学院医学系研究科・助教

研究者番号：60896455

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地域包括ケアシステムにおける医療連携の在り方として、看護師が主導する高齢者の日常生活を中心とした新しい連携システムの構築を目的とし、研究を遂行した。実際に在宅療養高齢者のケアを担う、訪問看護ステーション、在宅訪問支援診療所と協働し、医療者を対象に連携の実態調査を行った。その結果、「必要な時に、必要な職種が、適切に繋がる」ことが重要であり、連携する職種と手段の見直しに着手した。今回、我々は看護師と薬剤師の協働に焦点を当て、高齢患者に対する薬剤管理の質向上を目指した新たな研究を計画している。また多職種連携アプリの導入を開始し、ICTを活用した効率的な情報連携の確立を目指していく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで、国内でも多くの施設が多職種連携に取り組んでいるが、病院を研究フィールドとした検討は多く存在するものの、地域をフィールドとした検討は未だ不足しており、研究の遂行により新たな知見が得られるものと考えられる。

また海外では、ICTによる情報連携は進んでいるものの、どの領域のどの場面で、どのような職種が協働すべきか等、より現場の実情に即した連携の在り方に対して、検討はなされていない。また、国内と国外では医療体制や患者のニーズは異なるため、我が国における地域医療の実態に沿った、新たな多職種連携の形を明らかにすることは意義のあるものと言える。

研究成果の概要（英文）：This research was carried out with the aim of building a new Nurse-led collaboration system for the daily lives of the older people in the community-based comprehensive care system. We conducted a survey on the actual state of collaboration among medical professionals in collaboration with home nursing stations and home visiting support clinics. Based on the results, we reviewed the professions and ways of collaboration. We are now focusing on collaboration between nurses and pharmacists and plan a new study aimed at improving the quality of medicines management for older patients. In addition, it will start the implementation of a multi-professional collaboration application to establish efficient ICT-based collaboration.

研究分野：老年看護

キーワード：高齢者 地域包括ケア 多職種連携 情報ネットワーク

## 1. 研究開始当初の背景

急速に高齢化が進む我が国では、地域包括ケアシステムの構築を目指し、「病院完結型」医療から「地域完結型」医療への転換が推進されている。そのため、急性期を脱した患者の多くは、早期に病院から地域へと移行することが求められ、結果として、退院後の生活に十分な準備や配慮がなされないまま、地域に戻ることも少なくない。

特に、若中年者とは異なり、高齢者は多くの慢性疾患を抱え、完治する疾患ばかりではない。障害を抱えながら地域で暮らす高齢者にとって必要となる医療は、治す医療だけでなく治し支える医療であり、治す対象が疾患であるのに対し、支える対象は生活機能である。医療と介護、病院と診療所、高齢者を取り巻く多くの職能集団が整備されつつある現在、地域包括ケアシステム確立のために不足しているのは、これらを効果的に連携するネットワークシステムであり、特に高齢者にとって不足している点は、生活機能の連携である。

一方、近年ICTを利活用した連携システムが普及しつつあり、大阪大学医学部附属病院(以下、阪大病院)においても、地域との電子カルテのリンクが本格的に始動した(阪大病院ネット)。今後、阪大病院ネットを利用することで、病院・地域間でのタイムリーな双方向の情報共有が期待できる。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、地域包括ケアシステムの医療連携の在り方として、ICTを利活用し、看護師が主導する生活機能を中心とする新しい連携ネットワークの有用性を明らかにすることであり、最終的には地域包括ケアシステムの最適な連携ネットワークの構築を目指す。

## 3. 研究の方法

研究協力機関である、訪問看護ステーション、在宅訪問支援診療所、大学病院医療情報部のスタッフと協働し、高齢者を対象とした、医療連携のニーズを把握、介入方法の示唆を得るために定期的にミーティングを実施した。また先行文献のレビューを踏まえ、専門職種に対し、多職種連携に関するインタビュー調査を行った。

また大阪府下の訪問看護ステーションを対象に、多職種連携の実態把握のため、アンケート調査を実施した。

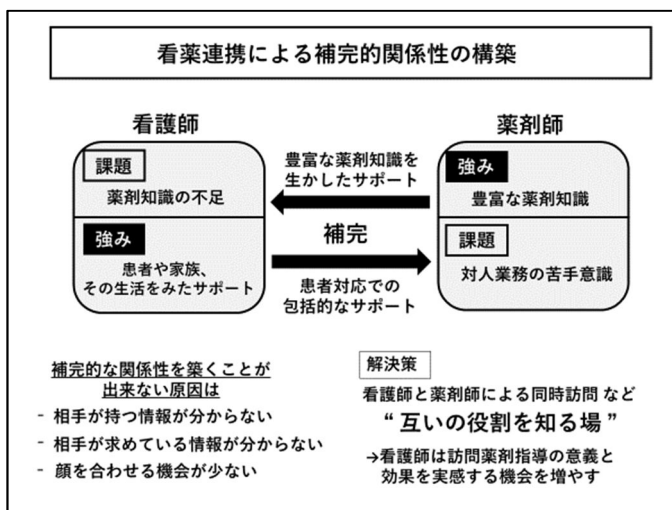
## 4. 研究成果

研究当初に課題として捉えていた「病院・地域間」の連携不足に介入する前に、「病院内」「地域内」それぞれの連携不足に介入すべき現状が明らかとなった。また、連携する職種についても、先行研究では医師、看護師をはじめ、コメディカルを含む全ての職種が一堂に会し、患者をサポートしていく形が望ましいとされていたが、現場では多忙が故に、効率的で持続可能な連携の形が望まれていた。

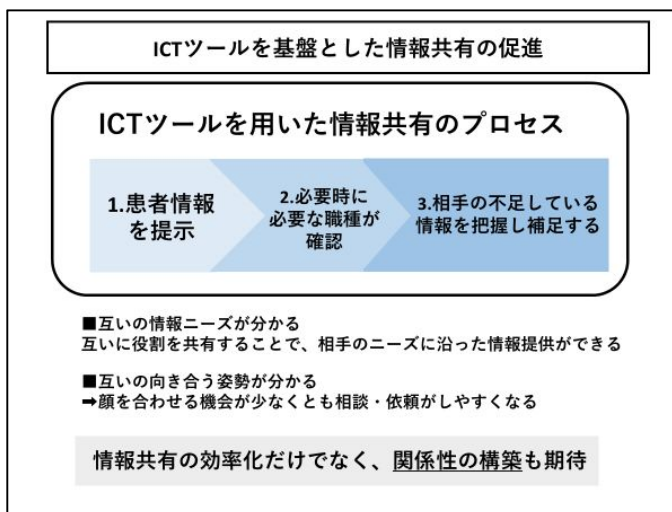
そこで、本研究では、高齢者の生活に沿ったケアを提供する「看護師」と「薬剤師」に注目し、看薬連携による介入に焦点を当て、高齢患者のポリファーマシーや老年症候群をアウトカムとした介入研究を目標とすることとした。看護師と薬剤師の連携について、実態を明らかにするために、文献検討と並行して、訪問看護師3名、訪問薬剤師2名に対し、半構造化面接を行った。

その結果、看薬連携の実態として、看護師・薬剤師間の情報共有不足が指摘された。具体的に、相手が持つ情報の把握不足、相手の情報ニーズの把握不足、日常的な共有機会の不足が挙げられた。

また、看護師は薬剤師に対し、豊富な薬剤知識の提供を求め、薬剤師は看護師に対して、患者対応の包括的なサポートを求めていたが、補完的な関係性の構築ができていない状況が明らかとなった。これに対しては、初回のみ同時訪問するなど、協働する場を意識的に設けることで、互いの役割を知るための場をもつことが有効であると考えられた。



また、看護師・薬剤師間の情報共有不足については、ICT ツールを活用が有効である可能性が示唆された。オンライン上に各職種が持つ情報を提示し、必要な時に、必要な職種が確認することで、互いに負担なく、双方の情報を把握することが出来る。その上で、自身が求める情報を提示することで、相手のニーズに沿った情報提供が可能となる。また、ICT ツールによる情報共有は、場所・時間を問わないため、時間的拘束が解消できる。そして、直接顔を合わせる機会が少ない状況下でも、オンライン上の情報共有で、連携に対する前向きな姿勢が伝われば、顔の見える関係に値する良好な関係性を築くことが出来ると示唆された。



実態調査を踏まえ、現在、研究協力施設と共に、多職種連携アプリの導入を開始した。患者を中心とした、経時的な情報の変化に対応するため、本アプリでは、掲示板機能と併せて、患者カルテ機能を搭載し、患者のケアスケジュールや診療内容を多職種で共有し、情報量を統一したうえで、ケアに対する情報交換を可能としている。共同研究機関の協力のもと、アプリを順次導入し、2022年度よりアプリの効果検証を開始している。

研究期間終了後も、継続してアプリの普及を進めるとともに、実態調査の結果をもとに、訪問看護ステーションと調剤薬局との「看薬連携」の介入試験を目指し、具体的に検討を行う予定としている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Misaki Kasamatsu, Yuichiro Saizen, Mizuki Katsuhisa, Yuko Takeshita, Kasumi Ikuta, Yuki Moriki, Mai Onishi, Eriko Koujiya, Miyae Yamakawa, Yasushi Takeya
2. 発表標題 Collaboration of nurses and pharmacists in community healthcare around the world
3. 学会等名 the 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 笠松弥咲、齊前裕一郎、大西真愛、勝久美月、竹下悠子、藤井美咲、森木友紀、生田花澄、勝眞久美子、関口亮子、深田悠花、石川武雅、小玉伽那、肥後友彰、大塚泰葉、糺屋絵理子、竹屋泰
2. 発表標題 在宅医療における医療用麻薬の管理実態と安全性への課題
3. 学会等名 第7回日本老年薬学会学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Investigation of factors associated with hypotension as adverse drug events in older hospitalized patients
2. 発表標題 Eriko Koujiya, Chie Hamaie, Mizuki Katsuhisa, Kasumi Ikuta, Yuko Takeshita, Yuichiro Saizen, Mai Onishi, Misaki Kasamatsu, Yuki Moriki, Miyae Yamakawa, Hiromi Rakugi, Yasushi Takeya
3. 学会等名 the 18th International Congress of the European Geriatric Medicine Society
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------